



一 善良ナル母ヲ造ル説

一 賊説

一 日曜日ノ説

一 貨幣病根療治録

明六雜誌

第三十三號



定價四錢

頃日吾儕盍簪シ或ハ事理ヲ論シ或ハ
異聞ヲ談シ一ハ以テ學業ヲ研磨シ一
ハ以テ精神ヲ爽快ニス其談論筆記ス
ル所積テ冊ヲ成スニ及ヒ之ヲ鏤行シ
以テ同好ノ士ニ頒ツ瑣々タル小冊ナ
リト雖_モ邦人ノ爲ニ智識ヲ開クノ一
助ト爲ラハ幸甚

明治甲戌二月

明六同社識

明六社雜誌第三十三號明治八年三月刊行

○善良ナル母ヲ造ル説
明治八年三月十六日
演説

中村正直

余前ニ人民ノ性質ヲ改造スル説ヲ演ベモ一ラルレリヂチスエヂユケ
一シヨシ(修身及ヒ敬神ノ教育)ア一トサイエンス(技藝及ヒ學術ノ教育)
コノ二大分ノ教育ニ由ラザレバ人民ノ心チ一新シ高等ノ度ニ進マシ
ムル能ハザル一チ説キタリコノ二大分ノ教育何レモ肝要ナレドモ其
一ハ本源ニシテ其二ハ末流ナリ技藝ノ教育ハ童子五六歳智識漸ヤク
開クル時ヨリ之ヲ始ムルトモ遲シトハイフベカラズ修身敬神ノ教養
ニ至リテハ胎教尤モ肝腎ナリ生レシ始ヨリソノ耳目ニ濡染シ身體ヲ
圍繞スルモノ嘉言善行ニ非ルハナク絶好ノ儀範ニ非ルハ無シ然ルト
キハ小兒ノ智識ノ漸ク開ケル以前ニ知ラズ覺ヘズモ一ラル及ヒレリ
ヂチス(修正ノ教及ヒ天道ノ教)先入ノ主トナルナリ身體ノ強弱ヲ以テ
之ヲ喻ヘンニ母胎ニ居ル内ニ其母強健ナル時ハ(其子生ル、後當然ナ

ル養育ヲ受レバ必ズ强健ノ人トナル若シ先天ノ滋養足ラザレバ生レ
シ後何程養生ヲ爲シ及ヒ良醫ノ治ヲ受ルトモソノ先天ノ時ノモノヲ
當然ニ發生セシムル^{タケ}丈ノ事ニテ別ニ加ヘ益ストコロ有ルヲ能ハズ身
體上ニ經驗シテ此理確然疑ガフベキナシコレヲ精神心術ニ經驗シテ
更ニ驚クベキ感化功驗ヲ顯ハセリ蓋シソノ子ノ精神心術ノ善惡ハ大
抵ソノ母ニ似ルモノナリソノ子後來ノ嗜好癖習ニ至ルマデソノ母ニ
似ルモノ多シ然ルトキハ人民ヲシテ善キ情態風俗ニ變ヲ開明ノ域ニ
進マシメソニハ善キ母ヲ得ザルヘカラズ絶好ノ母ヲ得レバ絶好ノ子
ヲ得ベク後來吾輩ノ雲仍ニ至ラバ日本ハ絶好ノ國トナルベク修身敬
神ノ教モ受クル人民トナルベク技藝學術ノ教モ受クル人民トナルベ
ク智識上進心術善良品行高尚ナル人民トナルベシ吾輩ハ先天ノ教育
ノ滋養足ラズ中年碌々志業成リ難ク窮廬ニ悲歎シ歐米ノ開明ヲ羨ヤ
ムノミ何トゾ吾輩ノ雲仍ハ善キ母ノ教養ヲ受サセ度深望ノ至ニ堪ヌ

ナリ扱善キ母ヲ造ラシムハ女子ヲ教ルニ如カズ女子ヲシテモ一ヲル
エソドレリギチスエヂケイシヨソ(修身及ビ敬神ノ教)ヲ受シメ男子ニ
嫁シテ子ヲ生ミタラシムハソノ子ハ胎孕セシ前ヨリ健康ナル道理旺
盛ナル精神充滿シ善徳ノ空氣ヲ喻ヒ天道ノ日光ニ沐浴スルモノカラ
眼目ヲ以テ智識ノ門戸トナシ心思ヲ以テ無形ノ妙體ニ及ボシ他日剛
強勇果勤勉忍耐ノ諸徳トナル基本既ニ搖籃ニ戯ムレ乳養ヲ受ル間ニ
備リ立ツトイフモ誇大ノ言ニハ非ルナリ男女同權ノ弊ヲ氣遣フハ教
育ノナキ婦人ノ亭主ヲ尻コシクテ怕ル、ニ過ズ天道ヲ畏レ眞神ヲ敬
シ技藝ヲ好ミ學術ヲ嗜ミソノ夫ノ補助トナリ相愛シ相敬スルヤウニ
ナリタラバ此等ノ心配ハナカルベシ同權カ不同權カソレハサテオキ
男女ノ教養ハ同等ナルベシ二種アルベカラズ苟クモ人類總体ヲシテ
極高極淨ノ地位ヲ保タシメント欲セバ宜シク男子婦人共ニ皆一樣ニ
ル修養ヲ受シメ其ヲシテ同等ニ進歩ヲナサシムベシ純清ナル婦人ハ

純清ナル男子ニ伴ナハザルベカラズ蓋シ善徳ノ律法ハ男子婦人ノ差
 別ナク共ニ遵用スベキハ勿論ナリ善徳多クアル中ニソノ最モ主要ナ
 ルハ愛ノ徳ナリ詩人ブラウコンクノ名言ヲ引カレ曰ク眞正ノ愛ハ智
 識ヲ卑フト試ニ普天下ノ人ヲ見ユ天賦ノ才智最モ多キ人ハ眞實ノ愛
 情最モ深キ人ナリ愛ノ深キ人ハ智ノ深キ人ナリトイフモ可ナリ深愛
 ノ情アル婦人ハソノ夫ヲシテ福祉安樂ヲ享シメ邦國ノ爲ニ有用ナル
 事業ヲ成シムルコトナリコノ事ハ西洋ノミナラズ漢土ニテモ古賢ハ着
 意シ易ニ乾坤ヲ首トシ詩ニ關雎ヲ冠ムラス男女ノ正シキハ天地ノ大
 義ナリトモイヘリ文王ノ如キハ母ニ大任アリ胎内ノ教ヲ受ケ后ニ賢
 行アリテ内助ノ益ヲ受ラレタリ然ルニ支那ノ學者コノ事ヲ深ク推擴
 セズ獨リ男權ヲ重ニスルコトナルソノ大惑タルコト吾輩近コロ知リ得
 ルトコロナリ今世ノ人或ハ婦人ニ書ヲ讀シムルトキハ慢心スルナド
 ヲイフモノアリ夫慢心スルト慢心セザルハ教育上ニ關係スベシタイ

物質ノ上伎藝ノ上ニ着意セシメナバ我ノ知ルトコロニ非ズ修身及ビ
敬神ノ教ヲ受シメテ慢心ニ至ルコトノアルベキヤソレニ付テハ西洋ニ
テモ婦徳ヲ重シシ才藝ヲ次ニスル面白キ話説アリ今コヽニ引カン英
國ノ詩人ボルンス嘗テ良妻ノ事ヲ論シテソノ性質ヲ分テ十トナス好
性情(即チ親愛四分善キ意見二分巧智一分美麗(顔色眉目美好容貌嫺雅
等)一分以上十分ノ八ナリ引キ残りテ十分ノ二アリソノ中ニ其妻ノ産
業及ビソノ交遊及ビ尋常ヨリ善キ教育才藝等ナリコレハ人々各其意
ニ隨ガヒ之ヲ分ツベシ但シコヽニ注意スベキモノアリコノ諸ノ小部
分ハ零數ヲ以テ分ツベシコノ中何^{イッレ}ノ一ツニテモ全數ヲ取ルニ足ルモ
ノアラズト實ニコノ言ノ如ク婦人ハ第一ニ好性情ヲ重シズ而シテ百般
ノ好性情ハ一愛ニ本ヅキ生ズ所謂深愛アルモノハ必ズ和氣アリ和氣
アルモノハ必ズ愉色アリ愉色アルモノハ必ズ婉容アリト云ルガ如ク
諸善從テ生シコレヨリシテ才智モ生シ大事モ成シ得ラルベキナリコ

ノ好性情ノ母ヲ得テ絶好ノ兒子ヲ造ラシムハ吾ガ前ニイヘル現今人
民ノ性質ヲ改造スルヨリ容易キ業ナルベシイカニシテ胎教ヲ善スル
母ヲ得シヤ即チ吾ガ^ホ零ソノ端緒ヲ此一小話説ニ發スルモノナリ讀者
深長ニ思ハシムヲ冀テカフ

○賊説 三月十六日

西村茂樹

廣韻集韻々會並ビニ賊ノ字ヲ解シテ盜也ト云フ、玉篇ニハ人ヲ劫ス也
トアリ、書經ノ傳ニ人ヲ殺スチ賊ト曰フトアリ、左傳ノ註ニ賊ハ傷害也
トアリ、賊ノ字ノ義ハ大抵是ノ若シ、然ルニ後世ノ支那人天子ニ敵スル
者ヲ指シテ賊ト云フ、或ハ天子ニ敵スルニ非ズト雖モ、己レ名分ノ正ヲ
得タリト思フモ、己ニ敵スル者ヲ指シテ亦賊ト云フ、後出師表ニ漢ト
賊ト兩立セズノ如キ是ナリ、
日本書紀ニ虜賊等ノ字ヲ訓シテアタト爲ス、アタハアタルノ義ニテ、ス
ベテ己ニ敵スル者ヲ指スノ語ナリ、虜賊等ノ字ハ支那人ガ己ヲ尊ビ人

チ惡ムノ慢語ナリ、蓋シ支那ノ文字中ニテ本邦ノアタニ適合スルノ語
ナシ、故ニ姑ク虜賊等ノ字チ假リテ之チ填ルト雖モ其實ハアタノ語ノ
正義ニ非ルナリ、和名鈔ニ強盜海賊ノ字アリテ共ニ其訓ナキチ見テ之
チ知ルベシ、平家物語太平記等ニハ天子ニ敵スル者チ朝敵ト云フ不熟
ノ字面ナレモ差、名實相稱フノ語ト云フベシ、後世ニ至リ總テ天子ニ敵
スル者チ指シテ賊ト云フ、日本史外史ノ如キハ、原書ニ賊ト稱セザル者
チ改メテ賊ト曰フニ至ル、蓋シ支那人ノ陋習チ承ケテ自ラ覺ラサル者
ナリ
賊トハ或ハ人ノ物チ盜ミ或ハ人チ殺シ或ハ人チ劫ス者チ云フ語ニシ
テ、天子ニ敵スル者チ指シテ言フ語ニ非ルナリ、然ルニ天子ニ敵スル者
チ指シテ總テ賊ト云フハ人君獨裁國ノ風習ニテ人主チ過尊スルヨリ
起ル所ノ陋語ナリ、支那人ノ驕誇自尊ナルハ邦人ノ嗤笑スル所ナリ、然
ルニ此賊ノ字ハ支那人ノ偏見チ襲フテ之チ改ムルコトチ知ラズ亦異ト

スベキ者ナリ

邦人多ク朝敵ヲ稱シテ賊ト爲シ、謂ヘラク之ヲ以テ名義ヲ正スト、余ハ是ヲ以テ却テ名義ヲ失フ者ト思ヘリ、凡ソ猫ヲ指シテ猫ト云ヒ、犬ヲ指シテ犬ト云フ、是ヲ名義ノ正ヲ得タリト云フベシ、若シ猫ヲ指シテ犬ト云ヒ、犬ヲ指シテ猫ト言ハ、豈名義ノ正ヲ得タリト云フベケンヤ、今賊ヲ爲サイル者ヲ指シテ賊ト云フ、何ヲ以テ是ニ異ナランヤ、

然レモ天子ニ敵スル者ハ皆賊ニ非スト云フベカラズ天子ニ敵スル者ノ中ニモ賊ト稱スベキ者アリ賊ト稱スベカラザル者アリ、或ハ天子ト威權ヲ争ハント欲シ、或ハ人君ノ暴政ヲ遏メント欲シ、或ハ人君ノ艱苦ヲ救ハント欲シ、或ハ意見ノ異ナルヨリ政府ニ抗セント欲スルノ類ハ皆賊ト稱スベカラズ、唯人ノ貨財ヲ盜ミ無罪ノ人ヲ殺シ民ノ患ヲ爲ス者ハ是ヲ賊ト稱スベシ、故ニ天子ニ敵スル者ニモ賊ト稱スベキ者アリ、天子ヲ助クル者ニモ亦賊ト稱スベキ者アリ、

昔亞米利加人ノ英國ニ叛ケル、近年合衆國南部ノ其北部ニ叛ケル、或ハ其君ニ敵シ、或ハ其政府ニ敵セル者ナリ、邦人チシテ其事チ記セシメハ必叛人チ稱シテ賊ト云フベシ、然ルニ英國ノ史ニ亞米利加ノ叛民チ稱シテアメリカン(亞米利加人)ト云ヒ、米國ノ史ニ南部ノ叛國チ稱シテコンフェデレイトト云フ(コンフェデレイトハ盟約ノ義ナリ、南方ノ諸州連合シテ政府ニ叛キ、自ラコンフェデレイトステイツト稱セシニ由リ、直チニ其稱チ用ヒシナリ)啻其心チ居クコ公平ナルノミニ非ズ、亦記事ノ實チ得タル者ト云フベシ、

朝敵チ稱シテ賊ト云フハ外國チ稱シテ夷狄ト云フト同シク、共ニ智識狹隘ノ致ス所ナリ、十年以前マデハ外國チ稱シテ英夷墨夷ナト稱セシガ、今日ハ雲泥ノ違ニシテ、或ハ歐米ノ文明國又ハ西洋開化ノ諸國ト稱スルニ至ル、然ルニ近日ノ書史中猶朝敵チ稱シテ賊ト云フ者アルハ何ソヤ蓋シ今日ニ當リ外國チ稱シテ夷狄ト爲スルハ、交際上ノ紛紜チ起

シ國ノ禍害ヲ生スルモ測ルベカラズ然レハ外國ニ夷狄ノ字ヲ廢セシ
ハ人智ノ開クルニ由ルト雖モ、一ハ他國ノ交際ニ由ル者ナルベシ、朝敵
ノ如キハ、古人ハ已ニ枯骨ト爲リ、今人ハ尽ク降伏謝罪セシ者ナレバ、賊
ト云ヒ盜ト云フモ唯命ノマ、ナリ、然レモ虛心平氣以テ其事情ヲ察シ
舊來ノ陋見ヲ脱シ萬國ノ公正ノ道理ニ依據シテ之ヲ考フルキハ、賊ノ
字ヲ以テ朝敵ニ加フルハ實ニ不適當ノコトナルベシ、若シ史筆ヲ執ル者
意ヲ此ニ注キ、朝敵ニ賊ノ字ヲ加フルコトナクンバ、是ヲ以テ邦人智識ノ
一進歩ト稱シテ可ナルベシ、

○日曜日之說

柏原孝章

維新ノ後一異様ノ日ヲ出現シ來レリ、其名稱未タ一定セス、曇濁ト云ヒ、
損德ト云ヒ、又吞泥ト云フ、皆西音ノ轉訛ニシテ、日曜日ノ義ナリ、夫日曜ハ
七曜ノ一ニシテ、毎週ノ首ナリ、是ヲ以テ、毎歲必ス五十日アリ、此日ヤ縉紳
先生ヨリ、開化處士青年書生ニ至ルマテ、柳ヲ訪ヒ、花ヲ尋ルノ期トナセ

リ、故ニ妓樓酒店ニ在テハ、古ノ所謂門日物日ニ比ス、按スルニ、耶穌教ノ人ハ、古來此日ヲ以テ、教祖蘇生ノ日トナセリ、然レモ、元ヘーデン宗ノ人大陽ヲ神ナリトシテ、之ヲ祭祀スルノ日トナセシヲ以テ、名稱ノ起ル所トス、猶太宗ノ人モ亦此日ヲ以テ、禮拜日トナセリ、古エ希臘ノ一帝アリ、此日ヲ以テ、神ヲ祭ルヘキヲ公布セシヨリ、遂ニ世間普通ノ祭日トナルニ至レリ、晚近ニ及テ、之ヲ非スル說益盛ナリト云フ、此ニ由テ之ヲ見レハ、奉教ノ人此日ニ方リ、安息ノ獨ヲ慎ミ天ヲ敬スルカ如キハ、固ヨリ可ナリ、然レモ未タ此日ヲ以テ、放肆遊蕩スヘキヲ聞カス、而ルニ邦人語意ヲ誤解シ、甚タシキニ至テハ、嫖蕩放肆ノ義トナス者亦尠ナカラス、余一日家童門生ノ業ヲ抛テ學ヲ廢スルヲ見、其故ヲ問フ、皆云フ今日日曜日ナリ、是ヲ以テ之ノ如シト、余以爲ラク我邦ノ人學術品行共ニ西人ニ後ル、豈啻數里ノ外ノミナラシヤ、今人ヲノ日夜馳驅セシムルモ、尙ホ數十年ノ後ニアラスンハ、其地位ニ達セス、然ルチ況ヤ、每週必ス一日ノ光

陰ヲ消耗スルニ於テヲヤ、蓋シ縉紳先生ハ功成リ名遂ルノ人ナリ、開化處士モ亦自ラ見ル所アルヘシ、青年書生ノ如キハ、成業ヲ將來ニ期スヘキ者ナリ、焉ソ放肆自棄彼ノ兩者ノ鑒ニ倣フヘケンヤ、日曜ノ數一歲凡テ五十日、積テ十年ニ及ヘハ、五百日アリ、二十年ニメ千日アリ、三十年ニメ千五百日アリ、即四歲有一月ノ光陰ナリ、苟モ此光陰ヲ以テ、之ヲ勉強ニ施サハ、中人ト雖モ、亦必ス一事業ヲ成スニ足ンカ、余此ニ感スルヲ有テ、日曜日ノ說ヲ作ル、

○貨幣病根療治錄 貨幣四錄之四

神田孝平

正金次第ニ減耗シ紙幣次第ニ下落セハユ、シキ大事ナリ此國難ヲ救フノ道イカニセハ可ナラン曰ク別ニ奇策ナシ唯應ニ正金ノ外出ヲ止メ紙幣ノ數ヲ減省スヘキノミ「蓋シ正金ノ外出ヲ止メント欲スル時ハ雇入レノ外國人ナリ海外留學生ナリ公使領事ナリ船砲器械ノ買入ナリ鐵道電信ノ建築ナリ礦山工局ノ開業ナリ巡回大使博覽會ナリ可成

丈ハ之ヲ廢止セサル可ラス其乃廢止スヘカヲサル者ト雖尙ホ可成丈
ハ之ヲ減省セサル可ラス蓋シ此數ノ者ハ今廢セサルモ正金尽クレハ
廢セサルヲ得サル者ナリ善ク此機ヲ察シテ事ヲ決スル片ハ年々外出
スル正金ノ巨大ナル高チ引留ムルヲ得ヘシ「貿易ノ爲ニ外出スル者
ヲ引留メシニハ其外出スル所以ヲ區別シテ法方ヲ論セサル可ラス一
時物價ノ狂ニ依テ外出スル者アリ急進開化ノ爲ニ外出スル者アリ紙
幣ニ押サレテ外出スル者アリ紙幣ニ押サレテ外出スル者ヲ引留ムル
ニハ紙幣ヲ減消スル外ナカル可シ急進開化ノ爲ニ外出スル者ヲ引留
ムルニハ急進ヲ變シテ漸進トスルノミ一時物價ノ狂ニ依テ外出スル
者ノ如キハ無程返リ來ル時節アル可キナレハ常理ヲ論スレハ必シモ
之ヲ引留ムルヲ要セサレト時ヲ救フノ場合ニ在テハ當分輸出税ヲ廢
シテ之ヲ引留ムルニ如カス蓋シ輸出税ヲ廢スレハ輸出物ヲ増シ輸出
物ヲ増セハ輸出金ヲ減スヘシ是亦國產撫育ノ道ナリ「紙幣減消ノ方法

二至テハ專ラ政府ノ節儉ヲ主トス冗費冗官不急ノ構造等ハ申ニ及ハ
 ス海陸軍費等重要ノ分ト雖眼前ニ差支ナキハ當分廢止シ一意節儉ヲ
 守リ紙幣ヲ剩シテ之ヲ燒捐ツヘシ是レ所謂汝ニ出ツル者ハ汝ニ還ル
 ノ理ナリ之ヲ着實正當ノ法トス此外別ニ術アラハ恐クハ邪術ナラン
 夫ノ紙幣下落ヲ俟テ低價ヲ以テ買上ケ消却スルカ如キハ民財ヲ賺シ
 取ルニ同シ最モ邪術ノ甚シキナリ」扱右ノ手續ニテ年々幾百萬圓ツ、
 ノ紙幣ヲ消却スルキハ世上貨幣ノ數年々ニ減スヘシ貨幣ノ數年々ニ
 減スルキハ物價亦次第ニ低ルヘシ物價次第ニ低レハ物品ノ輸出次第
 ニ増スヘシ物品ノ輸出次第ニ増シテ其代價輸入品ノ代價ヨリ多クナ
 ルニ至レハ是ヨリ正金次第ニ來入スヘシ「紙幣次第ニ減消シ正金次第
 ニ來入シ其勢ヲ變セスシテ若干歲月ヲ經ハ終ニハ金紙ノ間畧ホ平均
 ヲ成スニ至ルヘシ一タヒ平均ヲ成スニ至ラハ是ヨリ紙幣ヲ燒却スル
 一ヲ止メテ引換金積立ノ手段ニ掛ルヘシ引換金ハ多數ヲ要セス金紙

已ニ平均ヲ成シタル上ハ發行紙幣ノ物數ノ三分一ニテ辨スヘシ「引換
ヲ行フト同時ニ金紙ノ差ヲ立ツルコトヲ免許スヘシ此免許ナキ間ハ紙
幣ノ害イマタ除キタリト云フ可ラス」爰ニ別段注意スヘキハ外國トノ
戰爭ナリ外國ト戰爭ノ事アレハ紙幣ノ價頓ニ下落スルヲ常トス政令
ノ禁シ得ル所ニアラス故ニ戰爭ヲ爲サント欲スルキハ軍費ノ外更ニ
紙幣引換金ヲ備ヘサル可ラス之ヲ備ヘスシテ戰爭ヲ起セハ紙幣下落
ノ爲ニ意外ノ變亂ヲ生スルコトアリ是レ紙幣ハ國威振起ノ爲ニ大害ア
ル由縁ナリ「外債ハ返濟ノ爲ニ巨多ノ正金ヲ外出スル者ナレハ勢ヒ急
ニ着手スヘカラス年期ノ定メモアルヘケレハ紙幣處分ノ定マルヲ俟
ツテ可ナリ」之ヲ要スルニ大主意既ニ定マリ加フルニ弊害ヲ憂フルノ
心深カラハ便宜ノ法ハ尙ホ時ニ臨ミテ餘多アルヘキナリ「或曰以上所
論財政ヲ治ムルノ道ニ於テハ然ルヘキニ似タリ只恐ル即今雇入ノ外
國人ヲ謝シ諸構造ヲ停止ナトセバ開化進步ニ差支アラソ曰ク財政治

マラサレハ眞成ノ開化ヲ成サズ眞成ノ開化ヲ爲サント欲セハ先ツ財
政ヲ治メサル可ラス況ヤ開化必スシモ費用ヲ要セサル者アルニ於テ
オヤ貨幣改正ノ間ハ宜シク專ラ無形無費ノ開化ヲ勉ムヘキナリ」又曰
ク開化進歩ハ姑ク之ヲ休ムモ妨ケナカルヘシ外國交際等ニ付テ更ニ
大ナル差支アラハイカソ曰ク貨幣ノ差支ト輕重大小ヲ比較シ最モ重
大ナル方ニ決スヘキナリ」然レトモ爰ニモ亦特ニ注意スヘキ一アリ抑
モ國ニ貨幣アルハ身ニ血液アルカ如シ其差支ハ實ニ國ヲ亡ホスニ足
ル重且大ト云フヘキナリ然ルニ近來時論ノ向フ所ヲ見レハ屢止メテ
モ差支ナキ大業ヲ起シ許多ノ財貨ヲ費シテ顧ミス紙幣ハ造リ次第正
金ハ出次第財貨ヲ輕視シ殆ト意ニ介セサル者ノ如シ豈謬見ノ大ナル
者ニ非スヤ我以爲ク此謬見除キ去ラサレハ假令比較スルモ何ノ益カ
アラソ却テ其謬ヲ大ナラシムルニ至ランノミ」概シテ之ヲ論スルニ方
今貨幣ヲ治ムルハ猶病ヲ治ムルカ如シ宜シク一切嗜欲ヲ遠サケ名利

チ抛キ職業ヲ廢シ交際ヲ絶シ一意療養シテ始メテ平快ヲ望ムヘキナ
リ然ルニ病氣ヨリ更ニ大ナル要事アリテ療養ニ迫アラスト云ハ、可
ナラソヤ我病カニ恐ル一分ノ療養ヲ怠タラハ一分ノ病勢ヲ長シ二分
ノ療養ヲ怠タラハ二分ノ病勢ヲ長シ怠リ積モリテ終ニハ回復スヘカ
ラサルニ至ラソヤ嗚呼貨幣ノ病既ニ膏肓ニ至ル療養ノ道豈必チ尽
サ、ル可ケソヤ

稟 白

一代價の毎号不同に付豫め決定仕兼候得共前金にて發兌號の先二十冊分御引受の一割引五十冊分の一割半百冊分の一割引にて差上過不足の追て算當の上可申上候

一府下みて御望の方の町所名前前御投書次第發兌毎に配達可仕遠國の府下みて御引受の御方より前金郵便税共受取不申内の遞送不仕候

東京藥研堀町

賣捌所 報 知 社

明治七年三月

大坂本町四丁目

取次所 河内屋具七

